

2026 9.15(火) → 9.17(木)  
10.6(火) → 10.8(木)  
11.10(火)・11.11(水)  
12.6(日)・12.7(月)

計10日間

第18回 2026  
プロジェクト・デザイン

# 合宿研修

「システム×デザイン思考」を実践に生かす

未来を創る **協創戦略**



【後援団体】



一般社団法人 PMI日本支部



一般社団法人 IIBA日本支部



特定非営利活動法人  
日本プロジェクトマネジメント協会



一般財団法人  
エンジニアリング協会



特定非営利活動法人  
ITコーディネータ協会

【主催】



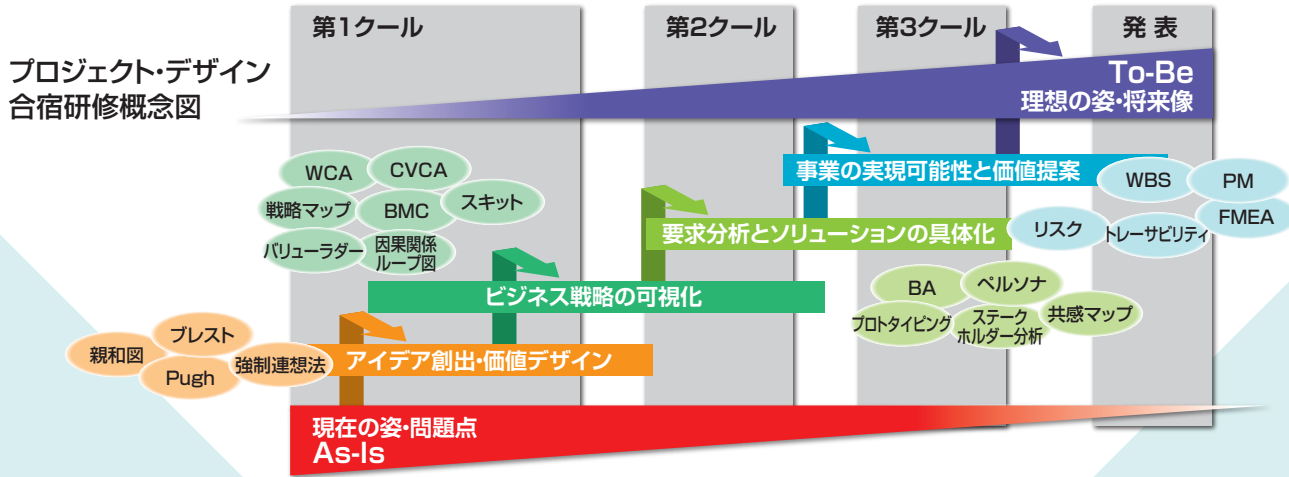
慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属  
システムデザイン・マネジメント研究所マネジメントデザインセンター

新しい価値を生み出す  
熱い2ヶ月間。

# 協創SDGs



2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です



世界は、AIの急速な進化、人口構造の変化、サステナビリティへの要請など、大きな転換期を迎えています。こうした時代に求められるのは、既存の延長線上ではない新たな価値を構想し、多様な人々と協働しながら社会実装へとつなげる力です。

本研修では、「問いをデザインする力」と「ビジネスを構想・検証する力」を往復しながら、社会課題に対するイノベティブな事業提案を創出します。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 (SDM) が培ってきた「システム×デザイン思考」をベースに、ビジネスアナリシス、プロジェクトマネジメントに加え、プログラムマネジメントやシステムズエンジニアリングといったグローバル標準的な考え方も取り入れながら、フィールドワーク、プロトタイピング、概念実証などの実践的手法を統合した、SDMならではのプログラムです。

今年度は、2027年国際園芸博覧会 (GREEN×EXPO 2027) をモチーフの一つとして取り上げます。自然・環境・地域・ウェルビーイングなどを切り口に、未来社会における新たな価値や体験を構想します。参加者は、フィールドワークや対話を通じてインサイトを探索し、ビジネスモデルの設計、価値検証、最終提案へと段階的に発展させていきます。

また今年度は、変化の大きい時代に対応するため、アジャイル型の考え方や反復的な改善プロセスも取り入れています。完成形を最初から求めるのではなく、小さく試し、学びながら方向性を進化させる実践的なアプローチを体験します。加えて、生成AIについても、アイデア発想や情報整理などへの活用可能性に触れながら、変化の大きい時代における活用のあり方について考えます。ただし、本研修ではAIそのものの活用方法を学ぶことを主目的とはせず、人間中心の価値創造や構想力を重視しています。

研修は、合宿・集合研修・オンライン研修・インターバル課題を組み合わせた構成となっており、講義だけでなく、異業種メンバーと

のグループワークや議論を重視しています。特にインターバル期間中には、各チームがフィールドワーク、インタビュー、仮説検証、プロトタイピングなどの活動を継続的に行い、実社会の中で得られた気づきを次の提案へと反映していきます。参加者同士が互いの専門性や視点を掛け合わせながら学び合うことで、新たな発想やネットワークが生まれることも、本研修の大きな特徴です。

また、講師陣による指導に加え、過去の修了生やSDM関係者との交流、オフィスアワーによる継続的な支援など、学びを深めるためのサポート体制も充実しています。単なる知識習得にとどまらず、「実際に動かしてみる」「検証する」「振り返りながら進化させる」プロセスを通じて、未来を構想し実践する力を養います。

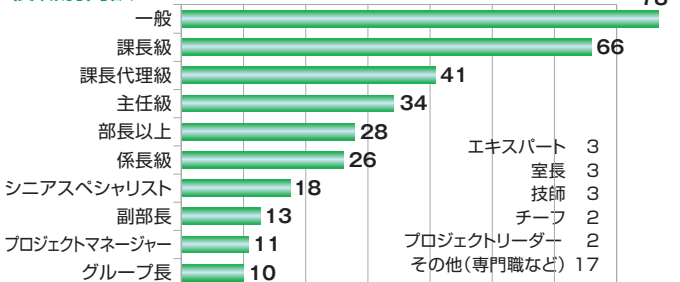
異なる業界・専門領域の仲間とともに、新しい社会やビジネスの可能性を探究したい方、構想を実践につなげる力を高めたい方のご参加をお待ちしています。

大塚 有希子 当麻 哲哉

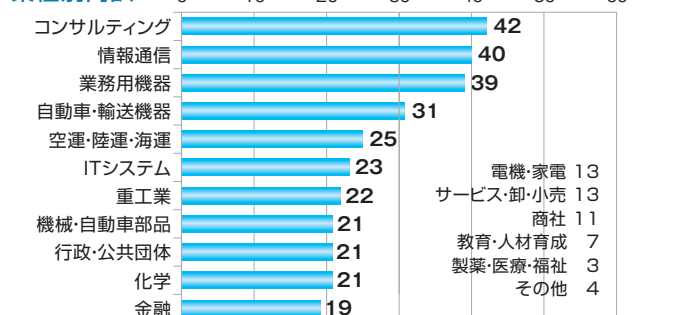
## 過去の受講者

●総受講者数355名(第5回～第17回) 男性:女性 = 312:43

### 役職別内訳



### 業種別内訳



- 行事等
- 集合研修
- オンライン研修

## 第1クール

## 集合研修(合宿)

デザイン+ビジネスモデル  
(問いのデザイン)意味の確定

### 事前課題 ビデオによる予習

### 事前

8/25 火

### 事前課題説明会

オンライン

19時30分～21時

1日目 9/15 火  
ーチーム・ビルディングー

2日目 9/16 水  
ー問いをたて価値を考えるー

3日目 9/17 木  
ービジネスをデザインするー

8:30-9:00	※オフィス・アワーは質疑応答や情報共有の場合(任意参加)です。	オフィス・アワー	オフィス・アワー
9:00		「問いを考える」 長谷川	「デザインからビジネスへ」 長谷川
10:30	開講式・事務連絡 10:00-10:30		
(15分)	休憩	休憩	休憩
10:45	研修イントロダクション 「研修概要および演習テーマ」	「問いを再定義する」 長谷川	「ミッションを考える」 濱
12:15	昼食(弁当)	昼食(各自)	昼食(各自)
13:15	「本質思考とは」 米澤	「アイデアを創出する」 長谷川	「ビジネスの関係性を分析する」 濱
14:45	休憩	休憩	休憩
15:00	「本質思考で研修テーマを深掘りする」 米澤	「インサイトを軸にピボットする」 長谷川	「ビジネスのシナリオを検討する」 濱
16:30	休憩	休憩	休憩
16:45	チーム・ビルディング 大塚	「価値を考える」 長谷川	「ビジネスモデルの構造を考える」 濱
18:15	夕食(チーム)	夕食(各自)	夕食(懇親会)
19:30	チーム・ビルディング 大塚	「価値連鎖を考える」 長谷川	
21:00			



インターバル課題

インサイトのためのフィールドワーク

## 講師プロフィール



白坂 成功  
Seiko Shirasaka

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科委員長  
教授 博士(システムエンジニアリング学)

三菱電機(株)を経て現職。専門分野は、イノベーション創出にむけた新価値創造方法論であるシステムxデザイン思考や、システムズエンジニアリング。2015~2019年、内閣府革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)のプログラムマネージャーとしてSAR衛星を開発。現在は情報処理振興機構デジタルアーキテクチャ・デザインセンター有識者会議座長、(一社)スマートシティ・インスティテュート エグゼクティブアドバイザー、内閣府宇宙政策委員、経済産業省グリーンイノベーションプロジェクト部会WG3座長などを兼任。



米澤 創一  
Soichi Yonezawa

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特別招聘教授 プロジェクトマネジメント/人材育成コンサルタント、プロフェッショナルメンター、投資家

元アクセンチュア株式会社マネージングディレクター。約27年のアクセンチュアのキャリアでは、プロジェクトマネジメントグループ統括、SAPプラットフォーム統括、教育責任者、品質管理責任者、などを歴任。2008年の慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科設立時から教鞭をとっている。専門分野はプロジェクトマネジメント、本質思考・本質把握力、人材育成、組織運営、リーダーシップなど。著書「プロジェクトマネジメントの生活のススメ」(日経BP)、「本質思考トレーニング」(日本経済新聞出版社)、「なぜ、あの人の会話は噛み合わないのか」(プレジデント社)



濱 久人  
Hisato Hama

株式会社彩成コンサルティング代表取締役 PMAJ研修委員会委員、東洋大学非常勤講師

建設コンサルタントで都市計画、交通計画のプロジェクトを担当、その後パナソニック株式会社のシステムソリューション部門及び人材開発部門にて、システム開発部門のSE及びPMとして、各種プロジェクトを担当。さらにNTTデータの研修機関である株式会社NTTデータユニバーシティを経て、現在は株式会社彩成コンサルティングを設立。専門はプロジェクトマネジメント・事業戦略・人材育成など。事業戦略・プログラム&プロジェクトマネジメント・パーソナルスキルなどの研修を推進中。



長谷川 廣明  
Hiroaki Hasegawa

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 非常勤講師  
ビジネス・システムデザイン研究所代表 情報処理技術者試験委員(IPA)

慶應義塾大学大学院SDM研究科にてシステムエンジニアリングを履修後、人材育成と事業創発を同時に実現するメソッドの研究・開発に従事。株式会社リコーにて基幹システムの要求開発および人材育成プログラムの設計・実行を担い、実務と教育を接続する体系を構築。現在は独立し、ビジネス・システムデザイン研究所を設立。企業の事業開発・人材育成を支援するほか、慶應義塾大学大学院SDM研究科にて教育に従事。情報処理技術者試験委員(IPA)。実務・教育の両面から事業創発の仕組みづくりを推進している。

## 第2クール

## オンライン研修

ビジネスモデルをソリューションへ  
ビジネスの具体化

## 第3クール

## オンラ

4日目 10/6 火

5日目 10/7 水

6日目 10/8 木

ービジネスを具現化するー

オフィス・アワー

オフィス・アワー

オフィス・アワー

「課題発表」

「スコープを定義する」  
大塚

「顧客視点で要求を引出す」  
大塚

休憩

休憩

休憩

「課題発表」

「潜在要求を引出す」  
大塚

「顧客視点で要求を引出す」  
大塚

昼食(各自)

昼食(各自)

昼食(各自)

「講評と次のステップの準備」

「潜在要求を引出す」  
大塚

「顧客視点で要求を引出す」  
大塚

休憩

休憩

休憩

「環境を分析する」  
濱

パネルディスカッション  
「SDMメソッドの適用」

「ソリューション・アイデアの  
妥当性を確認する」  
長谷川

休憩

休憩

休憩

「ビジネスをデザインする」  
濱

パネルディスカッション  
「SDMメソッドの適用」

「プロトタイプ計画」  
長谷川

インターバル課題

ソリューションの検証のためのプロトタイプング  
インターバル期間中に講師によるフォロー  
※インターバル期間中に1度、  
(各グループ30〜60分程度)のゼミを予定

7日目 11/10 火

ービジネスをプロジェクト

オフィス・アワー

「課題発表」

休憩

「課題発表」

昼食(各自)

「講評と次のステップの準備」

休憩

「プロジェクトを計画する」  
当麻

休憩

「リスクをマネジメントする」  
当麻



セミナー  
コーディネーター

大塚 有希子

Yukiko  
Otsuka

コンサルタント。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 非常勤講師。法政大学大学院イノベーションマネジメント研究科 准教授。博士(SDM学)、PMP、CBAP、ITCインストラクター、1級FP  
経済産業省、中小企業庁からの優秀案件採択、優秀アドバイザー表彰など。金融機関人事部門、戦略企画部門を経て、現在はコンサルタントとして、戦略・マネジメントに関する人材開発、制度設計のコンサルティングを行いながら、社会人大学院にて教育・研究指導等。慶應SDM研究所の「ビジネスデザイン×プロジェクトマネジメントラボ」代表。PMP®資格受験対策講座も担当。本研修についてセミナーコーディネーターを務める。



監修

当麻 哲哉

Tetsuya  
Toma

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授、研究科副委員長、SDM研究所 マネジメントデザインセンター 代表、博士(システムデザイン・マネジメント学)、PMP  
1988年3Mに入社、製品開発スペシャリストとして日米両国で約20年間、新製品をグローバル市場に導入、2008年より大学教員、現在に至る。2019～2020年マサチューセッツ工科大学訪問研究員。PMI日本支部理事、日本プロジェクトマネジメント協会理事・資格認定委員会委員長、国際P2M学会理事、日本創造学会副評議員長。  
著書に『グローバルプロジェクトチームのまとめ方:リーダーシップの新たな挑戦』(監訳、慶應義塾大学出版会)がある。



8日目 11/11 (水)  
トとしてデザインするー

オフィス・アワー

「ビジネスの実現性を確認する」  
大塚

休憩

「ビジネスの実現性を確認する」  
大塚

昼食(各自)

「ビジネスの実現性を確認する」  
大塚

休憩

「検証計画をたてる」  
大塚

休憩

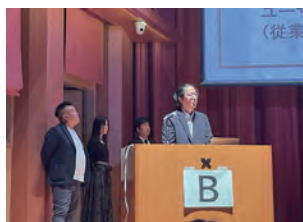
「プレゼンの極意」  
長谷川



発表準備(提案書)

ビジネスの仮説を検証する  
ビジネス検証のためのPROC

9日目 12/6 (日)  
ー最終プレゼンテーションー



最終プレゼンテーション準備

休憩

最終プレゼンテーション準備

夕食(各自)



10日目 12/7 (月)  
ー最終プレゼンテーションー

オフィス・アワー

最終プレゼンテーション  
リハーサル

休憩

最終プレゼンテーション

昼食(各自)

最終プレゼンテーション

休憩

最終プレゼンテーション準備

講評と振り返り

最終プレゼンテーション準備

夕食(懇親会)



※内容は変更される場合があります

8:30-9:00

9:00

10:30

(15分)

10:45

12:15

(60分)

13:15

14:45

(15分)

15:00

16:30

(15分)

16:45

18:15

(75分)

19:30

21:00

受講者のコメント



北 大樹

株式会社SUBARU  
(第15回参加者)

全く異なる業種の方々と“脳みそフル回転”で課題に取り組むことで、新たな思考回路を構築するだけでなく、これからを支え合う仲間が増える刺激的な3カ月を経験出来ました。研修後も仲間と交流し、学び続けられる貴重な研修です。



岡久 さおり

株式会社野村総合研究所  
(第16回参加者)

普段の業務で出会うことのない異業種の多様な受講生とシステム思考を掛け合わせアイデア創出からビジネスモデル策定に至るまでを一貫して学べる唯一の研修で、最先端の技術を活用した新しいサービスシステムのさらなる発展や他業種への展開のためのヒントを見つけるシステム×デザイン思考を身につけられました。



武井 森

株式会社アデコ  
(第15回参加者)

新しいアイデア・イノベーションを生み出す難しさと、それをビジネスという形にする難しさ。この異なる二つの要素を同時に学べる非常に意義のある研修でした。また、講義と受講者間の協業による学び、リアルとリモートを組み合わせなど、継続して学び続けられる仕掛けがあり、今までの研修にはないほど自発的に学べたと思います。



足立 尚哉

株式会社エビデント  
(第16回参加者)

イノベーション創出手法を体系的に学び、多様なメンバーで連日グループワークすることで学びを血肉にしていくなかなか貴重な経験でした。メンバーとは本音で議論したからこそその深い関係ができ、研修後も交流を続けられる仲間を得ることができました。



武田 佳祐

リコージャパン株式会社  
(第15回参加者)

新たな人生が動き出す!未来を切り拓く力を養う時間  
100年先を見越した俯瞰的問題意識を持ち、創造的にデザインし新しいアイデアを生み出す力が身に着きます。本音でぶつかり研鑽し合える仲間との出会いも人生の宝物!



松田 理子

日本航空株式会社  
(第16回参加者)

多様な価値観に触れながら、イノベーション創出のための思考法を学び、実践する濃密な3カ月でした。あたりまえだと思って見過ごしてきたことを疑い、感覚で行動してしまう前に思考を整理することが、物事の本質に近づくための近道であることを実感することができました。

第18回  
2026

プロジェクト・デザイン

# 合宿研修 募集要項

第17回 2025合宿研修



全てのカリキュラムを修了された方には、最終日に「修了証書」をお渡します。ご希望の方には最大72PDU (Education: Ways of Working 34 / Power Skills 13 / Business Acumen 25) の受講証明書、最大16.5ポイントのITCポイント付与証明を発行します。また、カテゴリー2で最大30CDU、またはカテゴリー5で最大15CDU自己申請することができます。

## ● 申込方法

WEBサイトよりお申込ください。

<https://www.sdm.keio.ac.jp/2026/03/02-122209.html>

## ● 期日

〈事前課題説明会〉 オンラインにて開催

2026年 8月25日(火) 19:30~21:00

〈第1クール〉 集合研修 9月 15日(火) ~ 17日(木)

〈第2クール〉 オンライン研修 10月 6日(火) ~ 8日(木)

〈第3クール〉 オンライン研修 11月 10日(火)・11日(水)

〈第4クール〉 集合研修 12月 6日(日)・7日(月)

各クール間にグループ課題もございます。

## ● 会場

集合研修：慶應義塾大学日吉キャンパス協生館

オンライン研修：Zoom、miroなどを活用して行ないます。

## ● 募集定員

30名 (最少催行人数：16名)

## ● 対象

プロジェクトをイノベティブに企画・遂行するリーダーを目指す方

## ● 受講料

440,000円(税込)

\* 宿泊費は別途お納めいただきます。(一人部屋 4,400円(税込)/泊)

\* 状況により前日オンライン開催とする可能性があります。

## 協生館宿泊施設

第1、4クールは合宿形式セミナーのため、9月15日(火)、16日(水)、12月6日(日)は原則として全員、協生館内の研修宿泊施設へ宿泊していただけます。ご希望の方は前後泊も可能です。



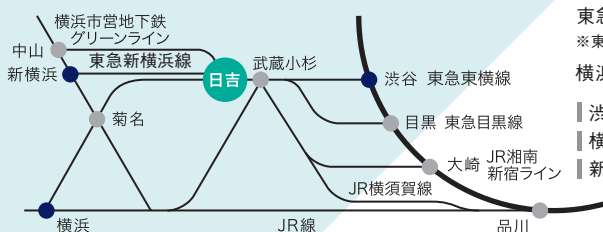
協生館

## システムデザイン・マネジメント研究所 (SDM研究所) とは？

SDM研究所は、企業をはじめ社会のあらゆる組織におけるシステムデザイン・マネジメントの理解とマネジメント能力の向上のため先端的研究・教育を行い、広く社会の発展に寄与することを目的として2008年に開設された研究科附属の研究所です。

公開講座・講演会・セミナー等の開催ならびに講師派遣、システムデザイン・マネジメントに関する研究調査、外部機関との研究プロジェクトの推進、国際機関・世界各地の大学および研究機関との協力・提携ならびに交流などの事業を行っています。

## ● 交通アクセス



日吉駅直結

## ● お問い合わせ先

慶應義塾大学  
日吉学生部 SDM担当



〒223-8526 横浜市港北区日吉4-1-1 協生館2F  
Tel: 045-564-2518 Email: sdm@info.keio.ac.jp

<http://www.sdm.keio.ac.jp/>